

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	淀川
学 校 名	大阪市立木川小学校
学校長名	小倉 猛昭

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立木川小学校では、第6学年 92 名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校では2教科とも、ほぼすべての項目で平均正答率で大阪市・全国平均を上回っている。また、平均無回答率では、国語科において大阪市平均よりも高かったが、全国平均と比べると1P低い水準となった。算数科においては、大阪市・全国平均よりも低い水準を保っている。これらのことから、最後まであきらめずに、粘り強く取り組む姿勢が育っており、一定の学力もも身につくつつある。

特定の領域で、学年全体として特に苦手な部分は見受けられないが、個々の児童に関してはそうではない。特に算数科においては低位層の児童が一定数存在し、固定化されている状況も見受けられる。今後さらなる個別最適な学びを推進していく必要がある。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

平均正答率が、全国平均より3.8P上回っている。領域別にみると、「言葉の特徴や使い方に関する事項」は6.8P、「話すこと・聞くこと」は2.9P、「書くこと」は1.1P、「読むこと」は1.0P、それぞれ全国の平均正答率より上回っており、「我が国の言語文化に関する事項」は0.1P、下回っている。

〔算数〕

平均正答率が、全国平均より3.5P上回っている。領域別にみると、「数と計算」は2.5P、「図形」は0.9P、「変化と関係」は6.6P、「データの活用」は1.6P、それぞれ全国の平均正答率より上回っている。

「学力向上支援チーム事業」と連動して、国語科の研究の成果が結果として表れている。特に、「ブロック化による学校支援事業」や淀川区役所の事業を活用した、漢字検定への参加によって、漢字の習得への子どもたちの意欲の高まりが、今回の結果につながったと考える。今後は「学力向上支援チーム事業」における算数科の研究への支援を通して、算数科での児童の学力向上に取り組んでいく。

質問紙調査より

「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化を目指して取り組んでおり、「朝食を毎日食べている」では、肯定的な回答は全国平均を0.4P上回ったが、「毎日同じくらいの時刻に寝ているか」で8.3P、「毎日同じくらいの時刻に起きているか」で9.8P、全国平均を下回っており、今後も継続して啓発が必要である。また、「将来の夢や目標を持っている」や「人の役に立つ人間になりたい」では、肯定的な回答が全国平均を若干上回っているが、「自分には良いところがある」では、11.9P全国平均を下回っており、自己肯定感や自己有用感を高める取り組みを行う必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

今年度の分析結果を受けて、本校が取り組んできた研究活動や、それを踏まえた日々の授業改善が児童の学力向上に寄与していると考えます。本年度より算数科において「教師の授業力の向上～算数科における基本的な指導の流れの習得～」を主題として研究活動を行っている。その研究の成果を他教科にも拡充し、児童の基礎基本の定着を目指していく。さらに、地域の老人会と連携した「世代間交流」や、校内での縦割り班活動での異年齢交流を通して、人と人とのつながりに重点を置いた、自尊感情を醸成する取り組みを粘り強く推進していく。

【 全体の概要 】

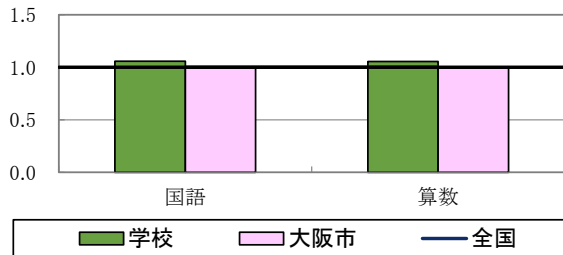
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	71	66
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

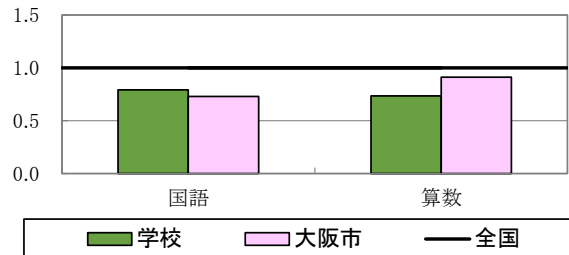
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	3.8	2.5
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



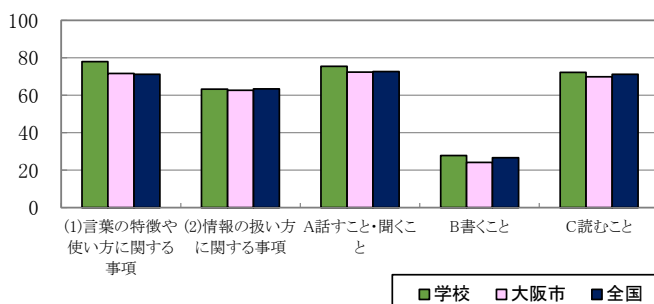
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	78.0	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	63.3	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	75.5	72.4	72.6
B 書くこと	1	27.8	24.2	26.7
C 読むこと	3	72.2	69.9	71.2

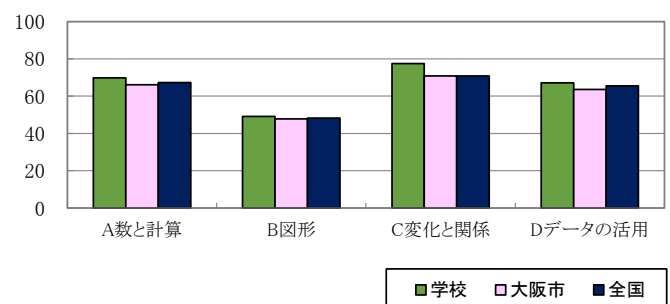
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	69.8	66.1	67.3
B 図形	4	49.1	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	77.5	70.8	70.9
D データの活用	3	67.1	63.6	65.5

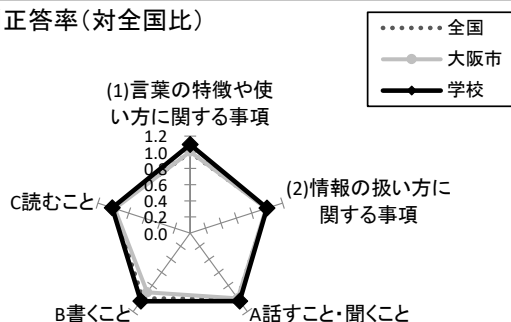
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



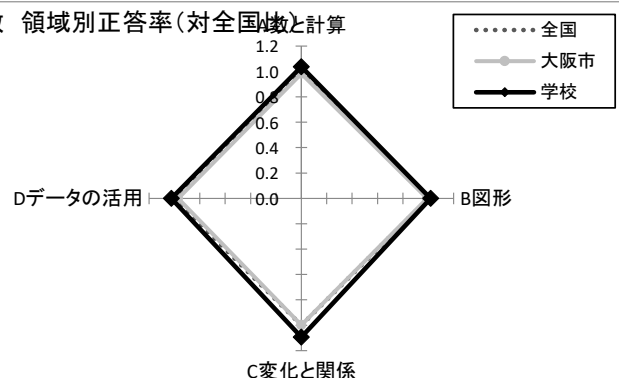
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)

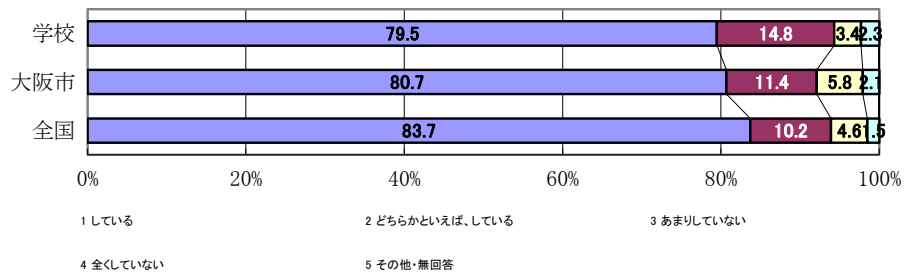


児童質問紙より

質問番号
質問事項

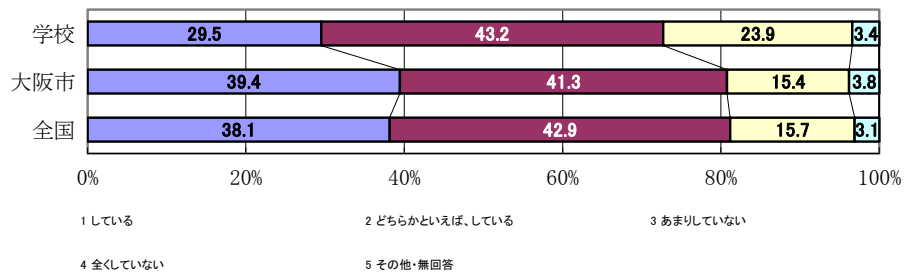
1

朝食を毎日食べている



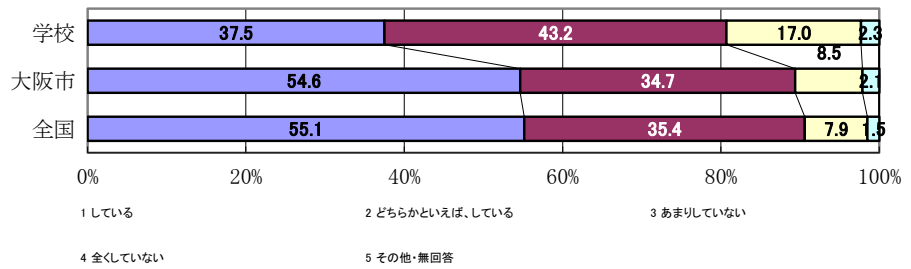
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



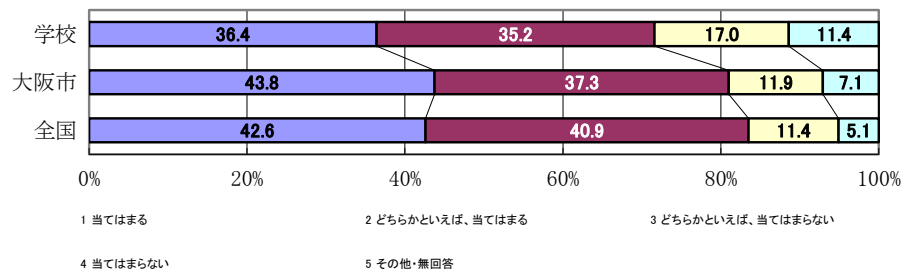
3

毎日、同じくらいの時刻に起きている



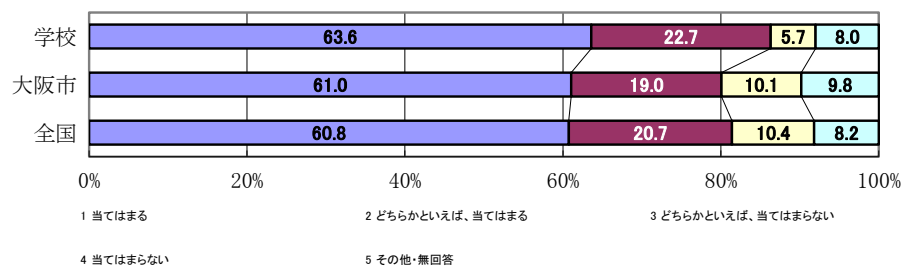
4

自分には、よいところがあると思う



7

将来の夢や目標を持っている



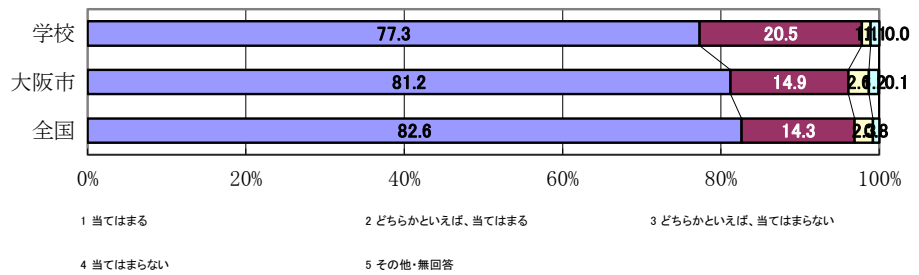
児童質問紙より

質問番号

質問事項

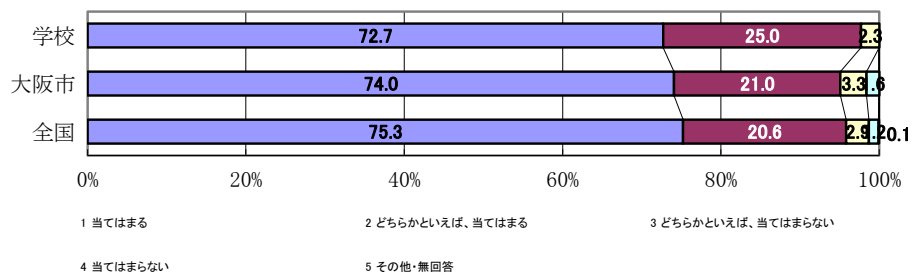
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



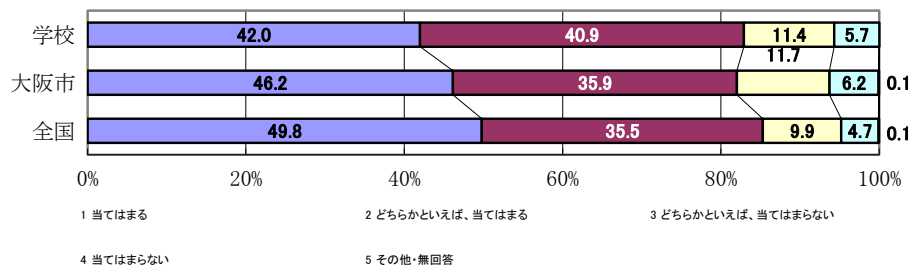
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



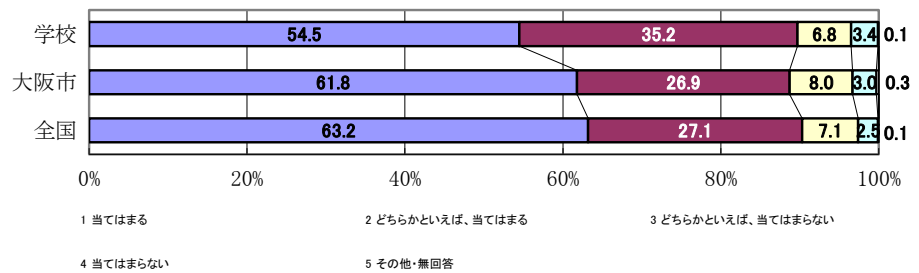
12

学校に行くのは楽しいと思う



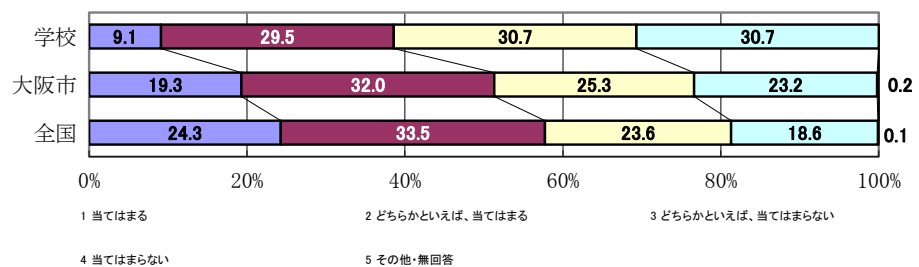
14

友達関係に満足している



25

今住んでいる地域の行事に参加している



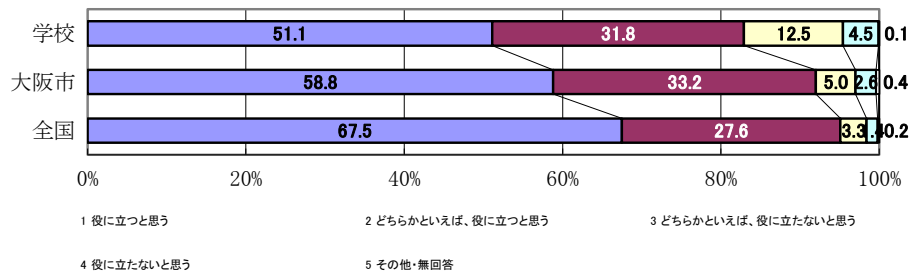
児童質問紙より

質問番号

質問事項

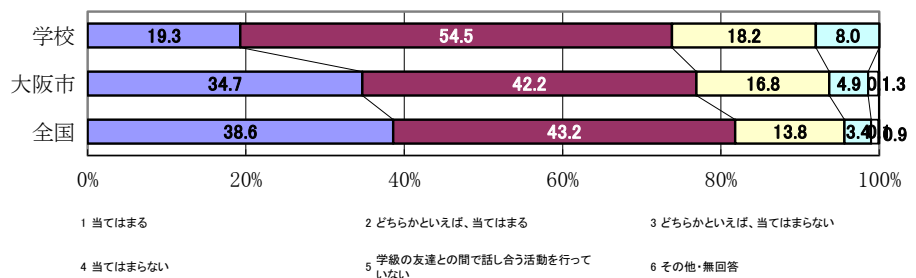
30

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



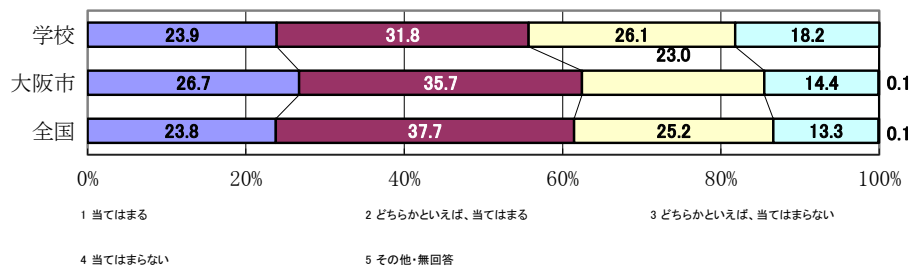
36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



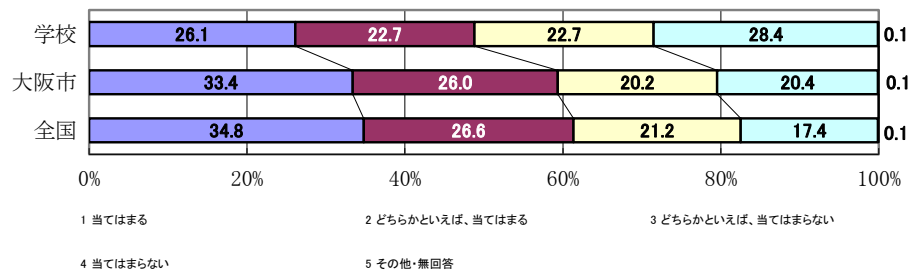
43

国語の勉強は好きだ



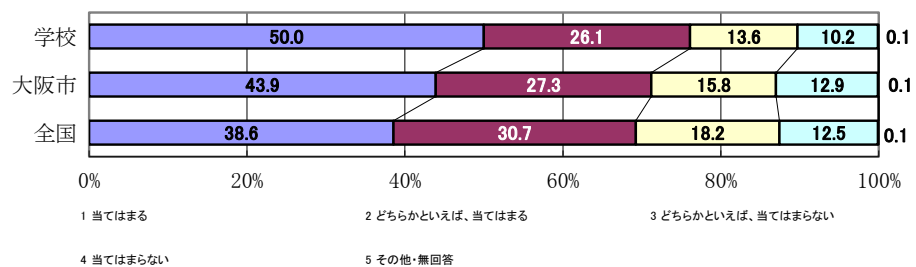
51

算数の勉強は好きだ



55

英語の勉強は好きだ



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

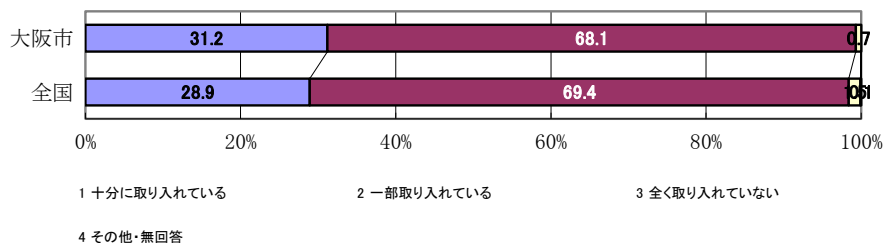
質問番号

質問事項

16

ICTを活用した校務の効率化
(事務の軽減)の優良事例を
十分に取り入れていますか

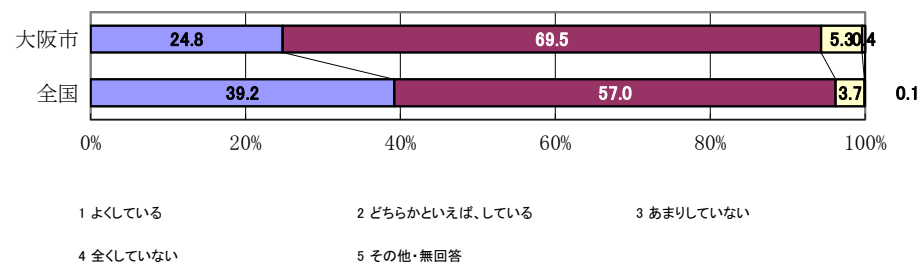
学校 「十分に取り入れている」を選択



19

児童の姿や地域の現状等に関
する調査や各種データなど
に基づき、教育課程を編成
し、実施し、評価して改善を
図る一連のPDCAサイクルを確
立している

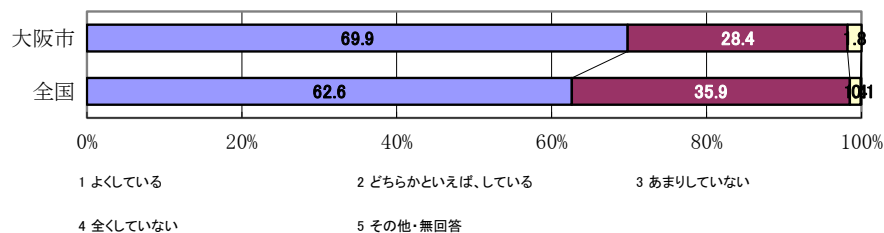
学校 「よくしている」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践
的な研修を行っている

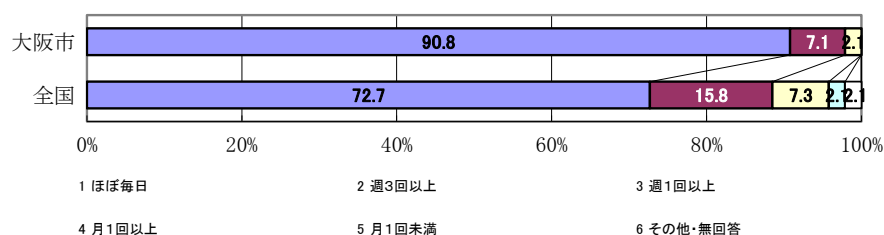
学校 「よくしている」を選択



52

前年度に、教員が大型提示装
置等(プロジェクター、電子黒
板等)のICT機器を活用した授
業を1クラス当たりどの程度行
いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



80

令和4年度全国学力・学習状
況調査の自校の結果につい
て、保護者や地域の人たちに
対して公表や説明を行いまし
たか(学校のホームページや
学校だよりなどへの掲載、保
護者会等での説明を含みま
す)

学校 「よく行った」を選択

